

小説部門



応募総数

327

作品

選考経過



一次選考通過

I3I

作品



23

作品

二次選考通過



最終選考候補

7

作品

選考委員

嬉野秋彦、新城カズマ、森 好正(コンテンツGP)

総評**嬉野秋彦**

今年の選考会は非常に難航した。甲乙つけがたい傑作揃いで難航したのなら嬉しいことだが、あいにくとそうではない。無論、いずれも最終選考まで残った作品たちなので、それなりのレベルには達していた。ただし、そのボーダーラインを越えてこちらの「おおっ!?」という部分まで食い込んでくるような、強力な“武器”を持った作品は、残念ながら1本もなかったように思う。

たとえ文章が荒削りでも、ストーリーに矛盾点があっても、それはさしたる弱点ではない。こうした弱点をおぎなってあまりある長所——その作者ならではの“武器”さえあれば、読者はその作品を楽しく、面白く読めるのではないか。それがとても大事だと思う。

新城カズマ

今回最終選考に残った作品の多くは、長所と短所が不思議なかたちで同居していました。「荒削りだが光るものがある」というのは新人賞での常套句で、それならば評価は難しくないのですが、問題は「不思議な」という点です。「なぜ後半だけが面白いのか」「キャラクターは描けているのに、なぜ設定の巨大な矛盾を見落としているのか」等々、原稿を読んで悩み、選考会でまた悩み、気がつけば選考終了後も論を交わしていました。作品の力を評価するべきか、それとも作者の将来性を見抜くべきか。そもそも「ライトノベルを書く」とはどういうことなのか。いろいろ考えさせられ、宿題を与えられた気分です。

森 好正

ライトノベルというジャンルが発展し、刊行点数もレベルの数も増えるなか、作品から破天荒さのようなものが失われ始めているのではないか? という危惧がある。今回の小説部門でも応募総数は増えたものの、たとえば『赤城山』のような「脳のどこから絞り出したのか!?」という驚きを与えてくれる作品は少なかった。ゆえに残念ながら大賞は出ず、優秀賞と佳作、そして編集部特別賞という組み合わせに落ち着いた。いま、ライトノベルは日本のみならずアジア各国や米国、欧州で続々と翻訳出版され始めている。世界の読者たちを驚嘆させうる作品を、ぜひ読ませてください。

優秀賞『学校の初恋』

PROFILE
プロフィール

末永 外徒

すえなが
ほかと

1975年8月17日生。福岡県出身。京都大学法学部卒業後、ゲーム会社に就職。希望通り企画・シナリオの仕事を担当していたが、満足のいくゲームを制作できたことを機に小説家を目指して退社。フリーとなる。

受賞の言葉

様々な方にご迷惑やご心配をかけてまで小説家を目指していたので、賞をいただけたことに感激すると同時に、ほっとしています。恩に報いるためにも、読者に楽しんでもらえる小説を書けるよう精進したいと思います。

作品紹介

中学校に入学したばかりの新は、旧校舎を探検中に危うく怪我をしそうになったところを、幽霊(?)の少女に救われる。「旧校舎には幽霊がいる! きっと良い幽霊が」もう一度幽霊に会いたかった新は、“魔女”と噂される先輩・リアンに何度も止められても旧校舎に忍び込む。そんなある夜、幽霊だと思っていた「少女」が新に声をかけてきた。なんと彼女は新が今いる旧校舎そのもので、建立100年を越えて「付喪神」となり心を持ったのだ。すっかり仲良くなつた彼女に「コウ」という名前をつけた新。二人の間にほのかな恋が芽生えた頃、皮肉にもコウの取り壊しが決まる……。残された時間で「海を見たい」というコウの願いを叶えるため、ひたむきに奔走する新。妖物に詳しいリアンらの協力で妖怪が真夜中に練り歩く「百鬼夜行」というお祭りを計画、大勢の妖怪と海までの大行進を楽しむが……。コウが胸に秘め続けた「新くんとずっと一緒にいたい」という真の願いは叶うのか——!? ピュアで異色な“学園”ラブストーリー!!

選評

嬉野秋彦

「声で魅せてよ~」とどちらを1番に推すべきか悩んだ作品。「古い校舎の付喪神」であるヒロインの、「海を見たい」という願いをかなえるための手段が面白かった。ただ残念なのは、主人公たちの周りを固めるサブキャラの使い方がよくなかった。一番注力して描くべきはもちろん主人公&ヒロインだが、その関係をしっかりと描くためにも、サブキャラの描写には気を配ってほしい。また、ひなびた田舎町の牧歌的な情景もう少し欲しかったところ。

新城カズマ

第一印象は「昨年の優秀作にタイトルをかぶせてきたとしたら、その度胸と洒落っ気だけでも大したものだ!」。キャラ配置や後半の展開に改善の余地はあるものの、「無生物の1人称」という扱いにくい技法も上手く活用している。描くべきところをきちんと描いた素敵な田舎町青春譚、ということでスムーズに優秀賞。

森好正

「学校」に1人称で語らせる、という試みを、キッチリと貫き通したことをまず評価したい。新人の1人称作品にありがちな視点の混乱も少なく、その言動も含め「学校」という魅力的なキャラクターの造形に成功している。また「学校」の相手役の男の子の他、各サブキャラクターもみな生き生きとしているのも評価できるところ。ただ、その分余分なエピソードや途中で消えていくキャラクターも多かった。「なにを書き、なにを書かなかいか」についてもつと意識的になつてもらいたかった。

佳作『声で魅せてよベイビー』

PROFILE
プロフィール

木本 雅彦 きもと
まさひこ

1972年7月9日生。静岡県出身。東京工業大学大学院博士過程修了。博士(理学)。東京芸術大学非常勤講師を経て、2003年よりソフトウェア関連企業に勤務。

受賞の言葉

手探りしながら小説を書いてきましたが、受賞の連絡を頂いて心から嬉しく思っています。同時に、佳作ということで、一層の精進が求められているものと理解し、今後の努力につとめたく思います。

作品紹介

歳の割りにどこか冷めたところがあり、天才的なコンピュータ知識をもつ高校生、広野昌幸。アニメやマンガが大好きで、アイドル声優志望の夢見がちな専門学校生、姫野沙奈歌。まったくタイプの違う2人は、それぞれ別目的で来た同人誌即売会で出逢い、ひょんな事から彼氏と彼女になった。沙奈歌は自分の夢や悩みを昌幸に話すものの、常に行動に迷いがなく突き放した言動の昌幸を冷たく感じてしまう。また、昌幸も沙奈歌に惹かれつつ、初めての恋愛感情に戸惑っていた。それ違ってしまう2人。そんな中、声優としてのステップアップの為、学校の先輩が主催する劇団に入った沙奈歌は、公演直前、声優事務所の社長に強引にスカウトされる。しかし、それは沙奈歌ではなく同じ劇団の椎名嬉里の引き抜きを意図したモノだった。社長の陰謀を知った昌幸はハッカースキルを駆使し、計画を阻止するため奔走するのだが……。自称"ハッカー"と自称"腐女子"の青春ストーリー。

選評

嬉野秋彦

今回最終選考に残った書き手たちの中では、文章力では一番だと思う。ハッカーと腐女子の恋というテーマが読者に受け入れられるのかどうかはともかく、それぞれの生態(?)はきちんと描けている。構成やシーンの見せ方もうまく、物語を書く上で必要な知識の蓄積もかなりのものだと感じた。ただ惜しむらくは、「ハッカーは孤独であれ」を身上とする主人公があまりにクールで完璧すぎる。この主人公では、同年代の男性読者の共感を得づらいのではないか。

新城カズマ

1行目から「これは絶対面白いく小説だ!」と直感させられました。キャラ配置、比喩の効果、小道具、クリエイティブな構成等、「上手い」を通り越して「絶妙」の域。ただ1点、主人公の造型に「感情移入の隙間がない」と見なされたのが大きなマイナスとなりました。もう1ランク上の、いや2ランク上の受賞で読者に是非を問うという選択肢も……というのは個人的なわがままですが。

森好正

話の読ませ方、と言う部分ではもしかすると優秀賞以上の技量の作品。「ボーイミーツガール」にテーマを絞り、正面から書いているところも好感。ただし「ハッカー少年と声優志望のオタク女子」というモチーフを今描かねばならない理由がよくわからない。「ボーイミーツガール」というテーマはどんなモチーフを用いても描けるだけに、「なぜそのモチーフを選択するのか」理由が欲しいところ。残念ながらこの作品からはそこが伝わってこなかった。

編集部特別賞『バカとテストと召喚獣』

PROFILE
プロフィール**井上 堅二** いのうえ けんじ

1980年東京生まれ。大学時代と就職後の1～2年でせこせこと書いた小説を投稿。仕事に注ぐべき力を小説に注ぎ込んだことが功を奏したか、幸いにも現在の状況に至る。出世には縁が無くなつたが、後悔はしていない。

受賞の言葉

努力熱血感動恋愛友情といったものからかけ離れたこの作品に賞を頂き、ありがとうございます。事故で骨折している時期に執筆した、まさに骨の折れた作品の為、喜びもひとしおです。

作品紹介

『試召戦争』——それはテストの点数によって強さが決まる召喚獣を使って行う、クラス単位の戦争。勝ったクラスは負けたクラスと陣地——つまり教室を交換できるルールだ。トップレベルの秀才が集まるAクラスの設備はリクライニングシートに冷暖房完備。対する最低成績Fクラスの設備は古い卓袱台・薄い座布団・腐りかけの畳。「こんな教室は不満じゃああっ!!」主人公・吉井直久と親友・坂本雄二らFクラス一同は、打倒Aクラスを目指し立ち上がった!! Fクラスの武器は、意表をつく大胆作戦と姫路瑞希(本当は学年2位だが試験当日に体調を崩してFクラスになった悲運の美少女)の学力! そして美少女にしか見えない少年・秀吉や、保健体育だけが妙に得意なムツツリ○○○・ムツツリーニなど独自のクセモノパワー! 上位クラスを次々と破り、遂に学年1位の霧島翔子を擁するAクラスとの戦いに挑む! そこでFクラスがとった秘策とは!? バカのバカによるバカのための熾烈な爆笑学園ウォーズ!!

選評

嬉野秋彦

「なぜテストによるクラス対抗戦に召喚獣が必要なのか?」という部分に疑問を持たないことが前提となるが、個人的には面白く読めた。何より、この作品にはいきおいがある。エキセントリックなキャラクターたち、テンポよく投げ込まれるギャグ、それらのおかげで最後まで一気に読ませてもらった。だが、最後がよくない。いきおいのある一発ギャグの連続で笑わせてきたが、最後の最後ですべてしまつた、という感じ。そこが惜しかつた。

新城カズマ

これを問題作と評せずして何と評さん! 勢いとギャグと数々の欠点で選考会を混乱の坩堝に叩きこんだあげく、特別賞の前例を復活させたのですから、それはそれで「力量」と讃めるべきでしょう。

あとはもう精進あるのみ。ここからボスト『ドクロ=ハルヒ』時代が始まる……のだとしたら、歴史というのはまったく恐ろしい。

森好正

小説としては文章・構成・話のオトし方のいずれも稚拙。とくにラストはうまいこと捻ろうとして逆に滑ってしまった感じがある。しかしながら世界設定から章間に挟まれるこまかにギャグまで、その発想の打撃力は素晴らしい。技量の不足している部分を向上してもらいたくはあるが、この打撃力を存分に伸ばすことむしろこころかけ、「攻撃特化型作家」として創作活動を行ってもらえば、と思う。

編集部特別賞『OUGI!』

PROFILE
プロフィール

八樹 こうすけ やぎ こうすけ

1974年8月21日、青森県生まれ。地元の高校卒業後大学を目指すも、目指しきれず挫折。東京に出ようと決心するも、なぜか埼玉に。いつしかライトノベルの魅力に気づき、作家になることを決意し、現在に至る。

受賞の言葉

時代小説というジャンルで挑戦してみましたが、ライトノベルで果たして受け入れてもらえるか、心配でした。結果的に、今回賞をいただけて本当に良かったです。チャンスをいただけたので、生かすようにしていきます。

作品紹介

奉公先がつぶれ路頭に迷った16歳の桜良すずめは、謎の黒猫に導かれ扇屋に住み込みで働くことに。憎まれ口ばかりでへそ曲がりの若旦那の夢一、おかげでかわいらしい童女はちみつ、おっとりとした美少女ましろが働く「扇屋」での和気藹々とした生活にほっとするすずめ。一方、江戸では扇に関する怪事件が発生し、岡っ引きの親分から夢一の元へ事件解決の依頼が舞い込む。実は、一見普通の扇子屋に見えて、店主の夢一は、靈扇からその神祕なる力を引き出して妖しを退治する扇士だったのだ！そのため、扇屋には度々不思議な事件が持ち込まれていた。すずめもその身に強力な靈験を宿していたため、そこを見込まれて雇われたのだという。だが、事件を調査するうち、死別したはずのすずめの父、伝説の靈扇絵師・仔式阿弥が遺した強大な力を持つ「靈扇十二支」を巡る戦いに巻き込まれていく。架空の江戸を舞台にした和風ファンタジックコメディ！

選評

嬉野秋彦

呪符の代わりに扇子をもちいる陰陽師モノ——といつてはミもフタもないが、まず、あえて舞台を江戸時代の江戸に持ってきたのであれば、最低限それらしい描写を入れるべきだった。かっちりした時代小説ではないとはいっても、江戸時代の風俗習慣などがほとんど描かれておらず、そこに作者の描写力の限界が見えていた気がする。ただ、主要キャラクターたちは生き生きと描かれていて、その部分には好感が持てた。特にふたりのちびっこがよい。

新城カズマ

舞台は架空の大江戸八百八町……でなくても成立してしまうドラマなので、辛めの採点に。固有名詞も無理にパロディにする必要はなかったかも。ただし基本はできていって、キャラクタの造型も見るべきものあり。できれば現代を舞台にした次回作を読んでみたいところです。

森好正

物語の読ませ方が非常に巧み。脇役の女の子ふたりも非常にかわいらしく描けており、このふたりを主人公に据えた話も読んでみたい、と思わされるほど。しかしながら舞台設定やモチーフに「新鮮さ」という重要なモノがなく、「巧い小説」で終わってしまっている。これだけライトノベルが溢れているなか、「読んだら巧い」というだけでは生き残れない。「読んでもらうためのとっかかり」を強く意識しながら作品を作りたい。

コミック部門



応募総数

349
作品

選考経過

コミック部門の最終選考候補は
「月刊コミックビーム」の
マンガ大賞入賞者が
ノミネートされます。



最終選考候補

8
作品

選考委員

吳智英、桜玉吉、しりあがり寿、奥村勝彦(ストーリーコンテンツ局副局長)

総評**吳智英**

今回は前回と比べて低調でした。全体的に作品の発想が少し甘かったような気がします。具体的に言うと作者独自のアイデアの練り込みがマイナチであるということです。そんな中でも、今回佳作を受賞した宮田紘次さんの『蛇腹』は、発想という点で目立ってました。まだ、全体的に上達の余地はありますので、精進を重ねてさらにオリジナリティを増していくれば、十分、プロとして勝負していると思います。

桜玉吉

前回と比べてネームの文章力が低下しているような気がした。そのせいなのか、候補作を読んでいて昨年より疲れてしまった。無駄な説明ネームとかが多くすぎるからかな。もう少し文章を大切にして欲しいと感じました。

あと、作風的には全体的には少し素直すぎるかな。もうちょっとアクが強い作品が増えてくれると嬉しいですよね。

しりあがり寿

なんか、まとめるので目一杯で、自分の中で描く動機が見つけられてないという印象。だから結果的に、何か他の漫画のコピーみたいな感じを受けた作品が多くなった。もっと新しい漫画の兆しが見たかったですね。そんな中で、まだ荒削りではありますが『セーリのひみつ』は目立ってましたね。

男性なのに難しいテーマにチャレンジしてましたから。

奥村勝彦

全体的な印象は他の選考委員の方々と全く一緒。ただひとつ、選考会の時に問題になった状況を述べておきたい。今回は選に漏れましたが、候補作の中で2作品、タイトルが無い作品がありました。たしかに作品にタイトルを付けるのは、プロでさえ悶絶するくらい大変な作業です。だけども、タイトルによって売り上げが全然変わったりするほど、大事な作業でもあります。この大事な行程を自ら放棄してしまうということは、プロに必要な資質に欠けていると判断されても仕方ありません。厳しい言い方になってしましましたが、それ位、重要な要件であると認識して欲しい。……まあ、せっかく産んだ子供なんだから、名前くらい付けてあげようよ。

佳作『蛇腹』22p

PROFILE 宮田 紘次 みやた こうじ
プロフィール

東京都在住。東京造形大学卒。24歳。

受賞の言葉

ありがとうございます。部屋に机を置くスペースがない為、ベッドの上で描きました。とりあえずいただいた賞金でどうにかしようと思います。

作品紹介

ある日、腹の中に蛇が入り込み、住み着かれてしまった女子高生。最初はとまどっていたが、次第に蛇に情が移っていき、チームワークもバツチリになったりして……。そんな彼女に好きな男が!! しかもその男は教師!?



選評

吳智英

今回の応募作では最高の評価。すっきりした絵柄でバカバカしい題材を描き上げている。ただちょっと、この内容だったら18ページ位でまとめられたら、もっと良かったのに。でも、そんなに時間がかからずに活躍できるのではないか。

桜玉吉

絵もストーリーも、こなれているし、ツボを押さえている。ちょっとソツが無さ過ぎるくらい。アイデア一発で逃げ切ったような印象があるなあ。

次に何を描くのか知りたいですね。でも、蛇と女の子という組み合わせは、非常にエロティックでいいね。そっちの方向に伸ばしてみるのもアリかもしれない。

しおりがり寿

読みやすいし、キャラクターのヘンな所も、きちんと描けてる。ただ、後半部分、教師との絡みのところあたりを、もっと工夫すれば良かったのではないか。もう少し重めにしてみるとか。そのへんは本人の好みなんでしょうけど、ちょっとサラリと読まれ過ぎちゃうのは、どーなんだろう?って思いますか。

奥村勝彦

もう少し細かいところをきっちり描くようにしないと、このまま止まってしまいそうな気がする。絵もストーリーも両方。現段階でもそこそこ持たせることができてただけにね。せっかく若いんだから、まだまだ、上のレベルを目指してもらいたいなあ。素材がいいだけに、現段階では完成してほしくない。担当編集者を含めて、本人も、その辺を強く意識してもらいたい。

奨励賞『せーりのひみつ』_{16p}

PROFILE
プロフィール

田村 達也 たむら
たつや

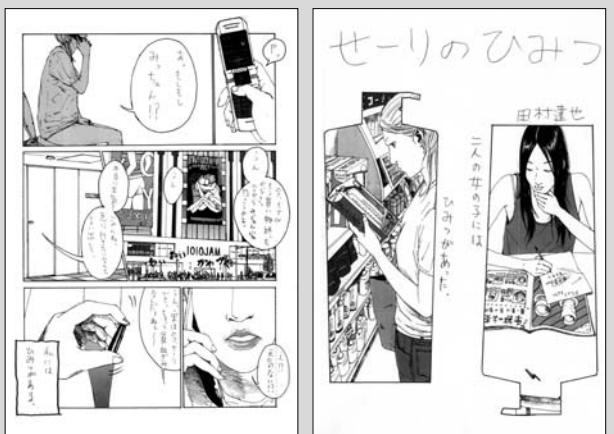
東京在住。大学4年在学中。22歳。

受賞の言葉

生理とは男にとって未知の機能です。「よし！ 描くならこれをテーマにしよう」と思いました。賞を頂いて嬉しいです！ もっと頑張っていい作品を沢山作っていきたいと思います！ ありがとうございました！

作品紹介

都会に暮らす2人の女の子。両方とも一見、普通の女の子なのだが、彼女たちには重大かつ、ワケのわからない秘密があった。お互い相談してわかったのだが、それは2人とも生理の時に……。



選評

吳智英

突拍子の無いアイデアにチャレンジした勇気は買えるが、まだまだ技術的に未熟な点が多い。従って、斬新なアイデアにもかかわらず、不完全燃焼に終わっている。惜しい。

桜玉吉

結構好印象。作者が男だからこそ、こういう展開はいいんじゃないかな。次回作が予測できないところもステキだ。ただ、作品の冒頭で、いきなりオチ描いちゃうのはどうなんだろう？

しおあがり寿

女の子同士の相談の様子とか、日常を細かく描こうという姿勢はいいと思った。女性の生理をテーマにしようと思うのも、姿勢としていいと思う。

奥村勝彦

バカバカしいアイデアが良いです。こういうネタは男ならではの特権ではないでしょうか。女だと鼻で笑って描かなければよーな気がします。ユニークであるのは間違ないので、きっちり研鑽を積んでもらいたいなあ。

東放学園特別賞

『雅先生の地球侵略日誌』

PROFILE

プロフィール

直月 秋政

なおつき
あきまさ

1985年生まれの福岡産。卒業後は作家の道を虎視眈々と狙いながらバイトの日々。百合と特撮と某12人の妹の出る作品を愛し、桑原水菜を尊敬する人と仰ぎながら現在に至る。

受賞の言葉

連絡を貰ったときは仰天の極みでした。自分の好きなものを詰め込んだ作品が評価されて恐縮すると共にとても光栄です。

作品紹介

クアーグゴ帝国皇子・サーティンは、ナンパでニートな28歳。「自分探し」のため地球侵略を始めたが、地球を守るヒーローに惨敗中。そんなダメ皇子を補佐する生真面目で常識人のワルザードは、普段は女教師「雅先生」として地球に潜伏していた。しかしそこは、ヒーロー戦隊アースファイブの5人全員が在籍し、保険医・渚先生はヒーロー側の副指令官というありえない学校だった。攻撃前に必ずポーズをとる怪人、バレバレな戦士の正体に誰も気づかないなど、敵も味方もヒーロー物特有の「お約束」な展開にハマっていくなか、周囲のノリにただ一人ついていけないワルザード。249戦全敗という情けない戦績についてにブチ切れた彼女は起死回生の大作戦を決行するが、またもや、正義のヒーローたちの「お約束」の展開に敗北するのだった。傷心のワルザードは渚先生（実は敵だけど）の優しさと笑顔に癒されて……!? 打倒、ヒーロー！ 「特撮ヒーロー物」をモチーフにした抱腹絶倒の爆笑コメディ！

選評

笠原次郎（えんため大賞事務局長）

いわゆる「特撮ヒーロー物」をモチーフにしたコメディ。「特撮ヒーロー物」のように、キャラ、ストーリーの構成に明確な「型」があるものをモチーフにするときには、その「型」、ある意味「クサさ」をどう料理してオリジナルの作品として構築していくのかが、重要なポイントとなる。本作品では、その点、主人公を責任感の強い生真面目な常識人である「異星からの侵略者の参謀」とし、特撮ヒーロー物の「常識」に浸る同僚と地球側ヒーローたちと対峙させたところがうまく機能したように思う。ただし、「異星人側か、なぜ特撮ヒーロー物のオタク的知識をもっているのか」など、作品世界全体を包む設定のフォローがもう少しほしかった。

えんため大賞受賞作品

1999年

第1回ファミ通エンタテインメント大賞

大賞 該当なし

小説部門

- 最優秀賞 「ボディガード」荒井千明
 佳作 「夜空に、満天の星」桜庭一樹
 佳作 「かがみのうた」神野オキナ

コミック部門

- 最優秀賞 該当なし
 入賞 「底抜けサーカス団」鈴木マサカズ
 入賞 「サムライ惑星」須田信太郎
 佳作 「犬。」小澤けいこ

イラスト部門

- 最優秀賞 該当なし
 入賞 「無題」アサダラサム
 入賞 「無題」山村真紀
 提勵賞 「無題」藤田順子

ドラマ企画書部門

- 最優秀賞 該当なし
 入賞 「風水流娘 睡蓮」大田原智子
 提勵賞 「WILD DIAMOND」深見 真
 東放学園特別賞(小説)
 「きみの願い、ぼくの望み」青山カナコ

2000年

第2回 ファミ通エンタテインメント大賞

大賞 該当なし

小説部門

- 最優秀賞 該当なし
 入賞 「深緑の魔女」伊東孝泰
 佳作 「パラレル・パラダイム・パラダイス」飛田 甲
 佳作 「GUNNER」てつまよしう

コミック部門

- 最優秀賞 該当なし
 佳作 「大きな出会いと小さな革命」山根 大
 佳作 「ホーローの光」へちまタワシ
 ユニーク賞 「音楽伝説ABC物語」ヨシダプロ

イラスト部門

- 最優秀賞 「宵闇通り7番街」英 里
 入賞 「無題」かじかかな
 入賞 「無題」TAROSUKE
 ドラマ企画書部門
 最優秀賞 「プラントハンター蘭」堀川しんら
 「人形神話」堀川しんら
 佳作 「27人の悪魔使い」山田浩平
 東放学園特別賞(小説)
 「アルシア・ハード~翼の後継者~」鈴羽らふみ

2001年

第3回 ファミ通エンタテインメント大賞

大賞 該当なし

小説部門

- 最優秀賞 「赤城山卓球場に歌声は響く」野村美月
 佳作 「三ヶ月の魔法」上島拓海

コミック部門

- 最優秀賞 該当なし
 優秀賞 「雪のマフ」千田悟史
 入賞 「白い本」保永知恵
 佳作 「スペースラーメン」ヒメソロウ
 佳作 「白箱2001」よつやひかる
 提勵賞 「SWORD MAKER」十尺まほ
 提勵賞 「TEXAS9」中嶋教介
 提勵賞 「酒と煙草と煙」山地由花

イラスト部門

- 最優秀賞 該当なし
 優秀賞 「いつも一緒に笛吹りな」
 優秀賞 「読書」NAKATO
 佳作 「ベンチャーズ」八多友真
 佳作 「ミツコ医院」安藤高行
 選考委員特別賞
 「鬼(機)神と戦士」うっちゃん
 (ワクワク賞)

ドラマ企画書部門

- 最優秀賞 該当なし
 優秀賞 「刀京始末綱」中川トシヒロ
 入賞 「邪宗門」海之帝國社
 選考委員特別賞 「ドキドキ魔法船リリンシタイトエンプレス」吉澤絵美
 提勵賞 「渋谷系銀ちゃん」西田賢二
 提勵賞 「白夜」中里友香

東放学園特別賞

該当なし

2002年

第4回 エンターブレイインえんため大賞

小説部門

- 大賞 該当なし
 優秀賞 「この時代に生きることを」坂本和也
 佳作 「カレディナ・ブラウスキュル」朝倉 衛
 佳作 「白詰草の香り」清藤コタツ

コミック部門

- 大賞 該当なし
 優秀賞 該当なし
 佳作 「foto chan」さかいわたる
 佳作 「二十六人の男と一人の少女」田邊 刚
 佳作 「ファンタジー・ファン」マナベウミ
 佳作 「アゴリンピック」みすたまさやす

イラスト部門

- 大賞 該当なし
 優秀賞 「シャッターチャンス」G3
 佳作 「Jump-off」御崎智敬
 佳作 「大切な風景」浅井あきひろ

えんため大賞受賞作品

選考委員特別賞 「白夜を渡る龍の船団」鳥取砂丘

東放学園特別賞(小説)

「永久駆動バッテットショウ」豊倉真幸

2003年

第5回エンターブレインえんため大賞

小説部門

大賞 「吉永さん家のガーゴイル」田口仙年堂

優秀賞 該当なし

佳作 「朱き女神の社」星隈真野

佳作 「精靈紀界ディメンティア」荒川要助

編集部特別賞 「閉鎖師ユウと黄昏恋歌」扇智史

コミック部門

大賞 該当なし

優秀賞 該当なし

佳作 「欲望という名のファミレス」小森谷寛

佳作 「さいごのふたり」すぎらあきら

イラスト部門

大賞 該当なし

優秀賞 「姉妹姫」柊暁生

優秀賞 「森のシャーベット」野中友

佳作 「ただいま…」AYARA

佳作 「スクール水着」ゆうすけ

選考委員特別賞 「砂漠の約束」まんじゅ

選考委員特別賞 「プリンセス・スイーツ」桜木晶

東放学園特別賞(小説)

「新説 無月物語 The Dark Tales」靴沢ゆうき

「悪夢の配分」荒城勇哉

2004年

第6回エンターブレインえんため大賞

小説部門

大賞 該当なし

優秀賞 「渚のロブスター少女」あさかあさひ

優秀賞 「緑竜亭繁盛記」橋 柏子

佳作 「超高速機動粒子炉船 春一番」出泉乱童

佳作 「狂乱家族日記」日日日

コミック部門

大賞 該当なし

優秀賞 該当なし

佳作 「Sweet Night 18」斎藤まり

佳作 「予知夢」米山毅

奨励賞 「Xploitation」岩瀬玲子

奨励賞 「うつつの幻画堂」原 鮎美

奨励賞 「乙女の祈り」松本藍

イラスト部門

大賞 該当なし

優秀賞 「明日の日記」保留トビュキ

優秀賞 「自由の花嫁」碧 風羽

佳作 「メリークリスマス」重戦車工房

佳作 「ブレイクタイム」松本曜介

奨励賞 「林檎姫」片瀬悠司

奨励賞 「お昼休み」羽坂莉桜

東放学園特別賞(小説)

「生ける少女のバヴァーヌ」佐藤了

2005年

第7回エンターブレインえんため大賞

小説部門

大賞 該当なし

優秀賞 「学校の階段」榎木高彰

優秀賞 「走って帰ろう!」加藤 聰

佳作 「ワンダフル・ワンダリング・サーフ」矢治哲典
~世界を救うのはパンダと女子ヒツジーラーマンと女子大生~

コミック部門

大賞 該当なし

優秀賞 該当なし

佳作 「母さんロックで泣く。」熊鹿るり

佳作 「ばかねこ」松岡 哲

佳作 「奥さんコメ屋です」奈良佳子

奨励賞 「発明王」佐々木タダシ

奨励賞 「兎子煙草」財賀 茜

イラスト部門

大賞 該当なし

優秀賞 「ララ」山崎透

佳作 「花」KEI

奨励賞 「Sweet」和錆

東放学園特別賞(小説)

「魔法日和の屋下がり」飼津祐太

「アカのキセキ」天乃楓

2006年

第8回エンターブレインえんため大賞

小説部門

大賞 該当なし

優秀賞 「学校の初恋」末永外徒

佳作 「声で魅せてよベイビー」木本雅彦

編集部特別賞 「バカとテストと召喚獣」井上堅二

編集部特別賞 「OUGI!!」八樹こうすけ

コミック部門

大賞 該当なし

優秀賞 該当なし

佳作 「蛇腹」宮田統次

奨励賞 「せーりのひみつ」田村達也

東放学園特別賞(小説)

「雅先生の地球侵略日誌」直月秋政

えんため大賞受賞作品刊行リスト



■ファミ通文庫（2000年12月発売）

「アンダートラップ」荒井千明

第1回小説部門最優秀賞受賞作「ボディガード」を改稿・改題。



■ファミ通文庫（2000年12月発売）

「ロシリスガーディアン AD2015隔離都市」桜庭一樹

第1回小説部門佳作受賞作「夜空に満ちる星」を改稿・改題。



■ファミ通文庫（2000年12月発売）

「閻色の戦天使」神野オキナ

第1回小説部門佳作受賞作「かがみのうた」を改稿・改題。



■ファミ通文庫（2001年5月発売）

「BIOME 深緑の魔女」伊東京一

第2回小説部門入賞作「深緑の魔女」を改稿・改題。



■ファミ通文庫（2001年7月発売）

「GUNNER」てつまよしとう

第2回小説部門佳作受賞作「GUNNER」を改稿。



■ファミ通文庫（2001年8月発売）

「ハイブリッドユニバース」飛田 甲

第2回小説部門佳作受賞作「ハラレル・ララタイム・ララダイス」を改稿・改題。



■ファミ通文庫（2001年6月発売）

「アルシア・ハード 翼を纏ぐものたち」鈴羽らふみ

第2回東放学園特別賞受賞作「アルシア・ハード～翼の後継者～」を改稿・改題。



■ファミ通文庫（2001年5月発売）

「プラントハンター 蘭」堀川しんら

第2回ドラマ企画部門最優秀賞受賞作「プラントハンター 蘭」を受賞者自ら小説化。



■ファミ通文庫（2002年1月発売）

「赤城山卓球場に歌声は響く」野村美月

第3回小説部門最優秀賞受賞作「赤城山卓球場に歌声は響く」を改稿。



■ファミ通文庫（2002年1月発売）

「三ヶ月の魔法」上島拓海

第3回小説部門佳作受賞作「三ヶ月の魔法」を改稿。



■ファミ通文庫（2002年2月発売）

「刀京始末網 ~ヒツジノワ~」森橋ビンゴ

第3回ドラマ企画部門優秀賞受賞作「刀京始末網」を受賞者自ら小説化。



■月刊コミックピーム（2001年9月号）

「雪のマフ」千田悟史

第3回コミック部門優秀賞受賞作。



■ファミ通文庫（2003年1月発売）

「リアルライフ」坂本和也

第4回小説部門優秀賞受賞作「この時代に生きることを」を改稿・改題。



■ファミ通文庫（2004年1月発売）

「永久駆動バッテットショウ」豊倉真幸

第4回東放学園特別賞受賞作「永久駆動バッテットショウ」を改稿。



■月刊コミックピーム（2002年9月号）

「ファンタジー・ファン」マナベ ユミ

第4回コミック部門佳作受賞作。



■月刊コミックピーム（2002年10月号）

「oto chan」さかい わたる

第4回コミック部門佳作受賞作。



■月刊コミックピーム（2002年10月号）

「二十六人の男と一人の少女」田邊 剛

第4回コミック部門佳作受賞作。



■月刊コミックピーム（2002年10月号）

「アゴリンピック」みずたま さやす

第4回コミック部門佳作受賞作。



■ファミ通文庫（2004年1月発売）

「吉永さんのガーゴイル」田口仙年堂

第5回小説部門大賞受賞作「吉永さんのガーゴイル」を改稿。



■ファミ通文庫（2004年5月発売）

「閉鎖師ユウと黄昏恋歌」扇 智史

第5回小説部門編集部特別賞受賞作「閉鎖師ユウと黄昏恋歌」を改稿。



■ファミ通文庫（2004年9月発売）

「駒王神社深川家物語 神楽と丹生」星隣真野

第5回小説部門佳作受賞作「朱き女神の社」を改稿・改題。



■ファミ通文庫（2005年1月発売）

「バッドボーイ×バッドガール」卯月勇太

第5回東放学園特別賞受賞作「悪夢の配分」を改稿・改題。



■ファミ通文庫（2005年1月発売）

「老舗のロブスター少女」あきさか あさひ

第6回小説部門優秀賞受賞作「老舗のロブスター少女」を改稿。



■ファミ通文庫（2005年1月発売）

「カエルと殿下と森の魔女 緑電亭繁盛記」橋 柏子

第6回小説部門優秀賞受賞作「緑電亭繁盛記」を改稿・改題。



■ファミ通文庫（2005年6月発売）

「狂乱家族日記 君さつめ」日日日

第6回小説部門佳作受賞作「狂乱家族日記」を改稿。



■ファミ通文庫（2006年1月発売）

「学校の階段」権末高影

第7回小説部門優秀賞受賞作「学校の階段」を改稿。



■ファミ通文庫（2006年1月発売）

「走って帰ろう！」加藤 眞

第7回小説部門優秀賞受賞作「走って帰ろう！」を改稿。



■ファミ通文庫（2006年1月発売）

「ワンダフル・ワンダリング・サーバ」矢治哲典

第7回小説部門佳作受賞作「ワンダフル・ワンダリング・サーバ」を改稿。



■ファミ通文庫（2006年1月発売）

「RE:嵐野アオイ 超高速機動粒子炉船 春一番」原口美奈子

第6回小説部門佳作受賞作「超高速機動粒子炉船 春一番」を改稿・改題。



■ファミ通文庫（2006年1月発売）

「私のKnightになってよネ！」佐藤 了

第6回東放学園特別賞「生ける少女のババーヌ」を改稿・改題。



■月刊コミックピーム（2005年11月号）

「母さんロックで泣く。」熊鹿るり

第7回コミック部門佳作受賞作。



■月刊コミックピーム（2005年11月号）

「ばかねこ」百名 哲

第7回コミック部門佳作受賞作。



■月刊コミックピーム（2005年11月号）

「奥さんコメ屋です！」奈良佳子

第7回コミック部門佳作受賞作。

